

添付文書上、連用中の急な投与中止にリスクがあるなど、投与中止時に漸減（徐々に減量）するように記載されている薬剤を参考として一覧を作成しております。詳細な内容については必ず添付文書で確認をお願いします。

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 薬品情報管理室

分類	薬剤名 <small>※青字は一般名で記載</small>	投与中止時に漸減が必要な理由	
睡眠薬・抗不安薬 (ベンゾジアゼピン受容体作動薬)	アモバン、アルプラゾラム、エスゾピクロン、エチゾラム、エリスパン、セパゾン、セレナール、セルシン、ゾルピデム、ドラール、トリアゾラム、フルニトラゼパム、プロチゾラム、ベンザリン、メイラックス、メンドン、ユーロジン、リーゼ、リスミー、レキソタン、ロラゼパム、ロラメット 等	離脱症状等が現れることがあるため	
催眠・鎮静剤	エスクレ、トリクロリール、デクスメトミジン、ミダゾラム 等	離脱症状等が現れることがあるため	
抗てんかん薬	アレピアチン <sup>1</sup> 、イノベロン <sup>1</sup> 、エクセگران <sup>1</sup> 、ガバペン <sup>1</sup> 、サブリル <sup>1</sup> 、セレニカ <sup>1</sup> 、ダイアアップ <sup>2</sup> 、ディアコミット <sup>1</sup> 、テグレート <sup>1</sup> 、デバケン <sup>1</sup> 、トピナ <sup>1</sup> 、ノーベルバル <sup>1,2</sup> 、バルプロ酸ナトリウム <sup>1</sup> 、ヒダントール <sup>1</sup> 、ビムパット <sup>1</sup> 、フィコンパ <sup>1</sup> 、フィンテブラ <sup>1</sup> 、フェノバル <sup>1,2</sup> 、プリミドン <sup>1</sup> 、ホストイン <sup>1</sup> 、マイスタン <sup>1,2</sup> 、ミダフレッサ <sup>2</sup> 、ラミクタール <sup>1</sup> 、ランドセン <sup>1,2</sup> 、ルピアール <sup>1,2</sup> 、レベチラセタム <sup>1</sup> 等	1: てんかん発作の増悪又はてんかん重積状態が現れることがあるため 2: 離脱症状等が現れることがあるため	
抗パーキンソン病薬	アーテン <sup>1</sup> 、アキネトン <sup>1</sup> 、アジレクト <sup>1</sup> 、アマンタジン <sup>1</sup> 、アポカイン <sup>2</sup> 、イーシー・ドパール <sup>1</sup> 、エスピー <sup>1</sup> 、カバサル <sup>1,2</sup> 、コムタン <sup>1</sup> 、スタレボ <sup>1</sup> 、デュオドパー <sup>1</sup> 、ドパコール <sup>1</sup> 、ドバストン <sup>1</sup> 、トレリーフ <sup>1</sup> 、ニュープロパッチ <sup>1,2</sup> 、ハルロピテプ <sup>1,2</sup> 、パーロデル <sup>1,2</sup> 、ピ・シフロール <sup>1,2</sup> 、ピレチア <sup>1</sup> 、ブライベキソール <sup>1,2</sup> 、ペルマックス <sup>1,2</sup> 、メネシット <sup>1</sup> 、レキップ <sup>1,2</sup> 等	1: 悪性症候群(Syndrome malin)を誘発することがあるため 2: 離脱症状等が現れることがあるため	
抗うつ薬	アナフラニール、アモキシサン、イフェクサー、ジェイソロフト、テトラミド、デプロメル、デュロキセチン、トフラニール、トラゾドン、トリプタノール、トリンテリックス、トレドミン、リトレン、パキシル、パロキセチン、ピプレット、ミルタザピン、ラツェダ、ルジオミール、レキサプロ 等	離脱症状等が現れることがあるため	
神経障害性疼痛治療薬	タリージェ、プレガバリン	離脱症状等が現れることがあるため	
オピオイド	アベンチンキ、アンベック、MSコンチン、オキシシドン、オキノーム、オキファスト、オプソ、コデイン、ソセゴン、タベンタ、ツートラム、デュロテップMTパッチ、トアラセット、トラマール、ナルサス、ナルベイン、ナルラピド、フェンタコル、フェントステープ、ノルスパンテープ、パシーフ、ベチジン、メサベイン、モルヒネ、レバタン、レミフェンタコル、ワンデュロパッチ、ワントラム 等	退薬症候等が現れることがあるため	
副腎皮質ホルモン (内服・注射)	ケナコルト、コートリル、セlestamin、ゼンタコート、ソル・コーテフ、ソル・メドロール、デカドロン、デキサート、ハイドロコートン、プレドニゾン、プレドニン、メドロール、リメタゾン、リンデロン 等	離脱症状等が現れることがあるため	
副腎皮質ホルモン (気管支喘息を効能効果とする吸入薬)	アズマネックス、アドエア、オルベスコ、シムビコート、パルミコート、フルタイド、フルティフォーム 等	喘息の急激な悪化を起こすことがあるため	
β(αβ)遮断薬	アロチノロール、インデラル、カルバン、カルベジロール、ケルロング、セレクトール、セロケン、テノミン、トランデート、ナディック、ピソノテープ、ピソプロロール 等	狭心症の悪化や心筋梗塞を起こすことがあるため	
Ca拮抗薬	カルスロット、カルブロック、シルニジピン、ニバジール、ニフェジピン、パイロテンシン、ヒポカ、ベニジピン、ベプリコール、ベルジピン、ヘルベッサー、ランデル、レザルタス、ワソラン 等	症状が悪化することがあるため	
その他	AD/HD治療薬	インチュニブ	血圧上昇、頻脈が現れることがあるため
	非定型抗精神病薬	エビリファイ、オランザピン、クエチアピン、クロザリル	離脱症状等が現れることがあるため
	抗痙縮薬	リオレサル、ギャバロン	離脱症状等が現れることがあるため
	抗不整脈薬	ソタロール	狭心症、不整脈又は心筋梗塞を誘発することがあるため
	抗血栓薬	ワーファリン、ヘパリン	血栓を生じることがあるため
	肺高血圧症治療薬	ウプトラビ、エポプロステノール	肺高血圧症状が増悪することがあるため